

第2回いわき市行政経営市民会議 議事要旨

- I 日 時：平成27年11月13日（金） 13時30分～16時00分
- II 場 所：市役所 第8会議室
- III 出席者：別紙のとおり
- IV 次 第
 - 1 開 会
 - 2 協 議
 - (1) 新・いわき市総合計画後期基本計画の改定たたき台について
 - (2) いわき創生総合戦略について
 - 3 その他
 - 4 閉 会

V 第2回会議の主な内容

- (1) 新・いわき市総合計画後期基本計画の改定たたき台について
事務局）～資料に基づき説明～

委員）いわき地域環境科学会主催の子ども環境コンクールで標語を募集したところ、「ごみ・リサイクル」が約半数、次いで「省エネ」、「自然環境」の順で応募が多かった。子どもが興味を持っている環境分野を知ることができたとともに、これは市民の関心と一致していると感じた。また、今回の見直しにおける環境エネルギー分野の内容と重なっていて、驚いている。

議長）市民の関心と見直しとが一致していて、世論が反映されている。

今回の見直しは、地域創生と重なってくる部分もあるため、従来の計画とは変わっている。また、これまでの計画では書かれていなかった部分について、今回の見直しでは言及されている。

では、具体的な中身について、事務局から説明願いたい。

事務局）～資料に基づき説明～

委員）長谷川祐一委員が欠席しているので、柱Ⅱの医療の部分に関しては、次回の会議で審議の時間を設定して頂きたい。

議長）了解した。

委員）柱0分野1（2）「放射線」の部分について質問がある。今回新しいスタイルでまとめられたが、タイトルしか入ってなく、内容が書かれていない。項目に「食

べ物の検査を徹底する」と記載されているが、これは従来の検査を踏襲するのか、それとも今までの取り組みに何か加えるのか。

放射線健康管理センター) 現在、住民が調理した食事を持ち込む検査に加え、スーパー等の加工食品の抜き打ち検査、飲料水として井戸水を使っている方の井戸水の検査等を行っている。検査は、その食事や水にどのくらいの放射性物質が含まれているかを調べるものである。国の基準値 100 ベクレル/1 キロを基準として検査しているが、基準値以下であっても、検出された場合には、それを摂取し続けることは回避したほうがよいものであり、個人の生活行動によって放射能の影響は異なるが、そのような場合には必要に応じた改善等の助言を行っている。

ただ、検査は、国の基準に基づいているので、手法はこれまでどおりの検査を行う予定である。放射線に対する意識は住民の中では低下している部分もあるが、それに合わせて検査を縮小してしまうと安心の担保ができなくなることから、検査は可能な限り続ける予定である。

議長) 項目等の見出しだけでわかりにくいとあるが、このあたりは今後そうするつもりか。

事務局) 現在修正中である。

委員) 放射能の話に続くが、本市の除染は今後どうするつもりか。近所の公園の除染してもらったが、他市では除染が終了したという話も聞く。本市は他市と比較して線量は低いようだが、現在の除染状況を教えて頂きたい。

除染対策課) 市除染計画第3版に基づき、優先順位をつけて実施している。まず、子どもの生活空間である教育・保育施設、公園等の除染を優先的に行い、除染がすでに完了している。

次に、重要な生活空間ということで、住宅の除染を実施している。計画は平成 28 年度を終了としていることから、すでに勿来、小名浜 常磐を除く地区についてはモニタリング・除染に着手している。南部に行くほど線量は低下するが、0.23 ベクレル以上の場所は実施していく。

現在、除染対象となっている住宅については、約 8 割程度の進捗であるが、今後は小名浜・勿来・常磐地区の除染も実施し、対象数が増加することから、実施率は変わっていく。また、事業所に関しては今後実施していく。

委員) 柱 0 分野 3 の方針に「ゲリラ豪雨」とあるが、この表現はどういう意図で使用したのか。最近ではテレビ等でよく使用している言葉で、わかりやすい表現だからか。また、地震、津波等、災害に関する固有名詞があちらこちらに散りばめられているので、整理してはどうか。

さらに、柱0分野4(1)「共に生きる(チーム浜通り)」とあるが、体系見直し案の新旧対照表には「共に生きる(チームいわき)」と記載されている。どちらかに統一すべきではないか。

事務局) そのあたりも含めて整理しているところである。気づいた点の指摘をしていただきたい。

議長) ゲリラ豪雨は従来の集中豪雨とは意味も異なる気がするので、そのように表記するのは良いと思う。

今後は、全体の言葉の整合性を考えて、うまく調整して行ってほしい。

委員) 柱0分野1(1)「住まいとコミュニティ」に防犯灯について記載がある。私の記憶だと、防犯灯は市民協働部の管轄だと思うが、ページ上部の「特に見てほしい部署」に市民協働部の記載がない。まちづくりという視点に立つと、このような限定的な書き方は気になってしまう。

また、柱0分野4「共生と感謝」では、行政経営部しか記載がないが、共生の視点で見ると、関係する部署はもっとあるのではないか。同じく柱2分野4「住み慣れた地域で暮らす」には保健福祉部だけ書いてあるが、ここも福祉関連の部署だけでなく、もっと多くの部署が関連していると思う。震災前にも増して、本市をより住みやすいまちにする、ということなのであれば、もっと広く全庁的に関わっていくような書き方が適切ではないのか。この関係部署の書き方だとあやふやになってしまう気がする。もう一度このあたりを精査し、示してほしい。

議長) 「特に見ていただきたい部署」とあるので、記載してある部署以外にも関連する部署はあるということだと思うが、確かにこういった書き方だと、書き手の意図は違っても、「この部署だけ見ればいい」というように庁内の各部署に勘違いさせてしまう可能性はある。全庁的に取り組んでいくことを前提としたうえで、特にこの部署には見てほしい、というものを示したのだと思うが、よりわかりやすいよう調整してほしい。

委員) 学校給食に使用する本市産食材の品目数を増やす話があったが、どうなっているのか。

学校支援課) 地産地消率は米が加わって、21.95%となった。また、県の地産地消率に関する考え方に変更があって、豆製品及びモヤシ、コンニャクについては、県外のものであっても、本県で加工したものであれば、本県産として良いことになった。

議長) そういう方針は産業面から見れば良いと思うが、安全性や本市の地産地消の側面から見ると微妙である。県がそのような方針を示した背景はあるのか。

学校支援課) 承知していない。補足だが、センター方式の学校給食の場合、大量の食材を確保する必要がある。そのため、地産地消率を上げようとしても、例えば本市産人参を 9,000 食分確保する必要があるなど、なかなか難しい。そのような中で、できるだけ本市産のものを使用しようと努力している。

議長) 以前も同じように、数量確保が困難というお話を頂いたことがあるが、地産地消は重要なので前向きに進めて頂きたい。

委員) 柱 I 分野 2 「ゴミ・資源」で、「ごみ」「ゴミ」というようにひらがなとカタカナが混在しているが、このように表記した意味はあるのか。無ければ統一すべきではないか。どちらかと言えばひらがなのほうが柔らかい印象があり、ごみカレンダーやごみ処理基本計画もひらがな表記であるため、「ごみ」に統一してはどうか。

また、柱 I 分野 3 の「守る」「まもる」もひらがなと漢字がある。いわき地域環境科学会では人の手を加えて守るほうを「保全」、人の手を加えず、自然のままの状態を保つことで守ることを「保護」というように使い分けをしている。ひらがな表記の「まもる」はこの 2 つの意味を含んでいるのか。

議長) 学会のほうではこのような使い分けをしているようだが、事務局としては意識した使い分けなのか。そのあたりの整理をしてほしい。

委員) 同じく柱 I 分野 2 で、リサイクル＝エコという考え方が広まっているが、いわき地域環境科学会ではリサイクルは最終手段というように説明している。最もエコなのは、ごみを出さないことである。ここでいうリサイクルは、リデュース・リユースも含んでいるのか。リサイクルが目的となりつつあるが、手段であって目的ではない。

また、項目の (1) 「ゴミを減らす」の「市民一人あたり年間ごみ排出量」の将来目標値が「900 g/人/年」となっているが、年ではなく日だと思うので訂正して頂きたい。

全般に言えるが、環境は大気や土壌等、自然環境だけでなく、人間もその一員であることを踏まえてほしい。成果指標で無理に表さなくてもいいものもあると思う。

環境をよくするために必要なことを良く聞かれるが、その地域を好きになれば環境改善につながる。郷土愛の部分ともつながると思う。

委員) 「ゴミ・資源」の分野に、ごみ以外の視点で、生活スタイルについて言及するとより良いのではないか。

議長) 気をつけていても出てしまうごみはあり、ごみを出さないというのは大きな課題である。その部分をリサイクルにつなげ、その他のリデュース・リユースと組み

合わせてほしい。

委員) 震災後、避難者が来てから、ごみの分別ができていないので、避難者たちに伝えていくことが必要と感じる。また、段ボールごみを出しておく、行政以外の業者が回収してしまう。段ボールごみは市財源になると思うので、どうにかするべきではないか。

議長) リサイクル等のごみの問題は、行政以外だけでなく市民の役割も大きい。震災から5年弱が経過し、避難者に対しても、その地区のルールに基づいた分別をするよう、地域住民から働きかけるべき時期である。

委員) 項目(2)②ポイ捨ての部分で、「ゴミを拾う人」という表現を使った文章が2つ出てきているが、どちらかにまとめたほうがわかりやすいと思う。

委員) 放射線の影響について、妊婦さん等から相談を受けたことがある。約3年前に、本市に放射能医学研究所を作りたいという話が出て、13地区で署名活動と陳情を行った。今回、内郷支所内に設置することとなったが、保健所や共立病院のほうがいいのではないかと。妊婦さんなどに安心してほしい。

議長) 新病院に設置するようにしてほしいということか。

放射線健康管理センター) 今回設置するのは出張所であり、病院内に設置して医学的な研究を行うレベルではないことから、機能的な面を考慮し、また放射線健康管理センターとの連携もあることを踏まえ、先方の希望により内郷支所内となった。

委員) 柱Ⅱ分野5の(1)「日々の暮らしの安心」に子ども達の登下校の安心とあるが、不審者が過激化しているという情報が入っているため、心配している。どのような対策や状況をしているのか。

生涯学習課) 当課青少年係では、青少年の健全化に取り組んでおり、地区ごとに補導活動を実施している。委員からのお話のように、学校等から各地域で不審者が発生している情報が入っており、昨年よりも犯罪的になっていると聞いている。例を挙げると、夏ごろに常磐病院裏、最近では平6小で発生しており、前者は警察と連携して犯人が捕まったが、後者については現在も引き続き捜査を継続しているところである。

委員) 柱Ⅱ分野1(3)の「結婚」について、個人的には「結婚」というキーワードをこの計画に入れて頂けたのはうれしい限りである。中山間地域では戸数の減少以上に子どもの数が減っているが、跡継ぎが都市部に住んでいるという理由のほかに、

中山間地域に住む人の中で独身が多いという理由がある。この問題は様々なところに影響してくる。本市の本気度を見ていこうと思う。

議長) 結婚観の変化もあり、難しい問題であるが、人口減少社会を見据えると、行政としての取組みも必要な時期に来ているのかもしれない。

委員) 柱Ⅱ分野4「住み慣れた地域で暮らす」の(1)「理解し尊重しあう」の高齢者・障がい者の部分に、「高齢者や障がい者は、支援が必要な人ではありません。」と書いてあるが、この書き方だと誤解をする人もいると思う。

また、(2)「助け合う」②「ご近所の力」のところだが、ここだけ他と文体が異なる。市民に声をかけるイメージでこう書いたのかもしれないが、少し気になる。また、「・・・」という書き方ではなく、他の書き方はないか。

事務局) 今後の修正作業等の中で検討していく。

議長) 行政としては、市民がこういった取組みができるようにしていくべきである。

(2) いわき創生総合戦略について
地域創生課)～資料に基づき説明～

議長) 西暦と和暦が混在しているので、統一してほしい。「人財」とあるがこの表記は意図的か。

地域創生課) 意図的である。

議長) 財産として人を捉えるのであれば、そのように書き添えてほしい。

地域創生課) 了解した。

以上

【署名】

石井多津子

田子英司